



古典に親しませるためのマンガ教材を活用した学習  
指導の在り方：

『孔子の思想』を読み、人間や社会について思いを  
巡らす

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学札幌校国語科教育学研究室 公開日: 2025-03-26 キーワード: 作成者: 宮内, 征人 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/0002000457">https://doi.org/10.32150/0002000457</a>

## 古典に親しませるためのマンガ教材を活用した学習指導の在り方

—『孔子の思想』を読み、人間や社会について思いを巡らす—

長島町立平尾中学校 宮内 征人

### 一 「実生活につながる読み」を図る(研究の目的と背景)

本論においては、「読むこと」の意義を考えることを通して古典に親しませる授業の連携的研究として、中学校三年生において学習する古典『論語』を題材に、「読むこと」の意義について言及し、教材開発と学習指導を論じるのが目的である。

加藤周一は、「おそく読む」精読術<sup>1)</sup>の中で、『論語』について、次のような問題提起を行っている(注1)。

『論語』は孔子と弟子たちとの対話の断片を前後の脈絡なく集めた本です。(略)だから一度読んでなんの「こと」かわからず、百ぺん読むうちにおのずからわかってくるという意見さえ出てくることになったのです。(略)たとえある程度までは、『論語』のそれぞれの断片の意味がとらえられるとしても、『論語』全体の思想をまとまった形で理解することは、困難または不可能に近いでしょう。

周知のように、「読書百遍義自ずから見る」の言葉どおり、音読は内容理解に一定の効果がある(注2)。自ら声を出して繰り返し古

典のリズムに慣れ親しませる音読は科学的にも立証されている効果的な学習方法である。平成二十年版学習指導要領の実施から、小学校においても古典の指導が本格的に行われ、これまで以上に音読指導に力を入れている。中学校の古典の指導においても、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための様々な言語活動に取り組んでいる。「温故知新」をはじめ、『論語』の名言は日常生活に密接に関わっており、学ぶ意義のある古典である。近年の『論語』の研究実践では、例えば、秋田哲郎による、『論語』の一節をもとにエッセイを書く指導や矢野隆男による、学習の動機づけとしての『論語』カルタの実践、井上泰の『論語』の注釈を用いた学習などがある。(注3)。

平成二十九年版中学校国語科学習指導要領の第三学年C「読むこと」(1)には次のように明示されている。(傍線は引用者による。以下同様。)

(1)ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。

イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。

ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

ア〜エは次のようにまとめることができるだろう。

ア 論理やストーリーの展開の仕方などを捉える構造と内容の把握)

イ 文章を批判的に読む(精査・解釈)

ウ 根拠を明確にして文章の形式を評価する精査・解釈)

エ 自分を取り巻く人間や社会、自然などについて意見をまとめる考えの形成、共有)

自らを取り巻く人間や社会について思いを巡らし、自分の意見をまとめ、自分の生き方や社会の中の自分のあり方について考えを深め、意見をもたせるには一体どのような手立てが有効であるか。「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をも」たせ、「実生活につながる読み」を図ることが本論の主旨である。

冒頭で引用した加藤の、「断片の意味がとらえられるとしても、『論語』全体の思想をまとまった形で理解することは、困難または不可能に近いでしょう。」を踏まえ、訓詁注釈の指導から脱却し、「実生活につながる読み」のために、『論語』をとおして孔子の思想をとらえさせるにはどのような手立てが有効か、次節において、先の指導項目を身に付けるための研究の方法について述べる。

## 二 マンガ『孔子の思想』の教材開発(研究の方法)

令和元年度の全国学力・学習状況調査の結果において、同年四

月に赴任した勤務校の中学三年生の平均正答率は県や全国との差が大きく、全国学力・学習状況調査結果チャートからも、国語の教科学力及び国語への関心が高くないことが確認できた(注4)。

中学三年生を対象に授業を行ったところ、下を向いて授業を聞いている学習者が少なからずいるのが気になった。学びに向かう姿勢とはいいがたく、国語への関心が高くないことを態度で示しており、授業改善が急務であることを実感した。そこで、古文や故事成語等における古典のマンガ活用例は見られるが、「論語」での活用例は管見の限りほとんどないことに着目して、学びの楽しさを実感させるために、古典に近づける、古典に親しませるためのマンガ教材を活用した指導計画を立てることとした(注5)。

なぜ、古典『論語』の授業にマンガを活用するのか。その主な理由として、①漢文特有の表現が中学生には難解であること。②『論語』は『平家物語』や『徒然草』等、他の古典と異なり、登場人物の心情が捉えにくいこと。③『論語』は教材文が短く、活字だけでは文脈や背景がとらえにくいこと、が挙げられる。

町田守弘はサブカルチャーとしてのマンガの教材開発についての先行研究があり、マンガは教材本文の理解を助ける役割を担っていると述べ、興味・関心を有する様々な素材に着目して、その素材をとおして国語科の「学び」が成立する可能性を追求し、「境界線上の教材」としての可能性を探っている。

町田は、「新しい時代に対応する教材研究」の中で、「新しい時代に対応する教材研究」とは、教科内容と教科教育の最新の研究成果に学ぶところから出発すると言えよう。「過去の教材研究に依拠してはならない」と、警鐘を鳴らしている。本論においては、学びの楽しさを実感させるために、古典に近づける、古典に親しませるためのマンガ教材を活用した指導計画を立てることとした。マンガが学習に有効であることを論じた先行研究には次の論考がある。

尾濱邦子・阿部敬信・宮崎栞恋による、「学習内容の理解に及ぼす学習マンガの効果——小学校第五学年の説明文を題材として——」では、学習マンガによる教材を用いることによって理解や記憶といった認知的処理が深く行われることを結論づけている。向後智子・向後千春の、「マンガによる表現が学習内容の理解と保持に及ぼす効果」では、文章だけの表現による場合に比較して、マンガ表現は長期の記憶保持に効果的であることをまとめている。佐藤公代の、「文章の読解・記憶に及ぼす漫画の役割」では、三週間後の再認テストではマンガの得点が高く、マンガは三週間ほどの記憶保持には有効であることを述べている。さらに、佐藤は「古典学習の理解・記憶に及ぼす漫画の効果」において、大学生は少ない時間で学習しようとする場合にマンガが役立ち、二週間後の記憶保持に効果があると記している。「これらに共通していることは、「理解や記憶の認知的処理が深く行われること」や「マンガは二〜三週間の記憶保持に効果があること」である。マンガは学習に有効であることが臨床研究からも立証されている。

では、学習マンガであれば、どのようなマンガでも学習に有効かという疑問が生じる。中澤潤は「マンガを学習教材として用いる利点」として次の四点を指摘している(注6)。

- ① 親しみやすいキャラクターにより、興味関心を高め、学習への動機付けを高めることができる。
- ② 文字では表現が難しい表現を、わかりやすく伝えることができる。
- ③ ストーリー仕立てにすることにより、文脈や背景がわかりやすく、内容理解がしやすい。
- ④ マンガの中に教授者と学習者が登場する場合、読者は学習者の立場に立ちやすく、教授者との対話をおおして学習

する過程に参加しやすい。

①の、「親しみやすいキャラクター」については言うまでもなく、学習への十分な動機づけになることは間違いない。「親しみやすいキャラクター」は、読み手を古典の世界に誘う仕掛けを担っている。②も、漢文の難解な表現を読み解く上でマンガは本文の理解を助ける役割を担う有効な教材となる。桃原千英子は、「漫画という絵で表現されたメディアでは、文字だけの時よりも視点人物への着目度がより強まるであろう」と述べている(注7)。③については、マンガでは絵や動きなどの情報が加わると、読み手には文脈や背景がさらに理解しやすくなる。ストーリー仕立ては古典の内容理解を助ける効果を持つ。④は、ミステリー小説に出てくる二人組、例えば「シャーロックホームズとワトソン」の関係、卑近な例では、ドラマ「相棒」の主人公、杉下右京とその相手の刑事のような関係において、読者視聴者は、数々の難事件を解決していく頭脳明晰な主人公シャーロックホームズや杉下右京の立場ではなく、もう一人の立場に立つて物事を捉え、シャーロックホームズや杉下右京の言葉から真実を理解するものである。つまり、この場合、『論語』において、読み手(学習者)は教授者孔子の立場ではなく、孔子の弟子の立場から孔子の言葉の意味を理解するのであり、教授者との対話をおおして読み手は意図を理解するのである。

中澤の指摘した点を援用して、これら四つのメリットを備えた『論語』のマンガを提示することとした。「伝統的な言語文化」を踏まえ、『論語』の雰囲気、内容を生の形で直接的に伝えられることを目的として、台湾人の蔡志忠の作画による、マンガ『孔子の思想』をもとにこれらの条件について検証することとした。

「マンガを学習教材として用いる利点」から「孔子の思想」を分析

③ストーリー仕立て

④教授者と学習者が登場

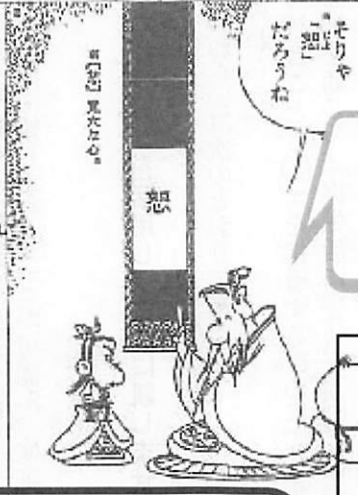
(教孔子と学その弟子)

②文字では表現が難しい表現



子貢問いて曰く、  
「一言にして以て終身  
これを行う可き者あり  
りや。」衛霊公第十五

【注】歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改めている。



①親しみやすい  
キャラクター

→子曰く、「それ恕か。」

己の欲せざる所は、人に施すなかれ。」

マンガ『孔子の思想』

(作画・蔡志忠、

訳・和田武司、

講談社、1989、P. 210)

「二」では例として、学習者に実際に提示した、「子貢問いて曰く、「一言にして以て終身これを行う可き者ありや。」(衛霊公第十五)をもとに、「マンガを学習教材として用いる利点」と合致するかを検証する。

① 動機付けとなる親しみやすいキャラクターが描かれているか。  
② 絵と言葉によって表現され、イメージしやすくなっているか。  
③ ストーリー仕立てにすることによって文脈や背景がわかるようになっているか。

④ マンガに教授者(話し手)と学習者(聞き手が登場するか。『孔子の思想』の教材としての妥当性を次のようにまとめた。

① 学習者は歴史マンガや古文のマンガを読むことはあっても、漢文のマンガは余り目にしないので、学習者にとって新鮮な印象を与えることができる。「マンガを学習教材として用いる利点」①「親しみやすいキャラクター」により、中国古典の世界に入り込みやすくする効果をもつ。

② 「マンガを学習教材として用いる利点」②の、「文字では表現が難しい表現」については、絵や言葉によって表現されるマンガは視覚に訴え、読み手にとつて文脈や背景が捉えやすくなる効果がある。「終身これを行う可き者ありや」の意味をマンガは絵や話し言葉を使ってわかりやすく説明している。

③ 教科書教材は孔子と弟子とのやり取りの一部しか掲載していないためにその背景がわかりにくい、マンガはあらずじや孔子の言葉の意味が理解しやすい。「マンガを学習教材として用いる利点」③の、「ストーリー仕立て」であることから文脈が捉えやすい。例示したページは四コマ構成で話の流れが捉えやすくなっている。

④ 「論語」は孔子とその弟子たちとの言行録である。学習者読

み手は孔子の弟子に自らを重ね、孔子の言葉の意味を理解しようとする。「マンガを学習教材として用いる利点」④と、「論語」の持つ「言行録」の表現形式とが合致している。

このように、「マンガ」孔子の思想』は中澤の提示する四つの要件を満たしていることが確認できる。『孔子の思想』はマンガを学習教材として用いる利点』を含んだマンガといえよう。学習者は、孔子の弟子の立場に自らを重ね、孔子の言葉の意味を理解しようとする。これらの分析を踏まえ、『論語』の発展・深化として『孔子の思想』を活用し、古典に親しませることが可能か、検証授業を行うこととした。

### 三 「マンガ」を活用し、古典に親しませる(検証授業)

実践のねらいは次のとおりである。

「実践のねらい」

C 「読むこと」(1)エを指導するために「孔子の思想」を活用し、言語活動を通じて、「実生活につながる読み」について検証する。

〈日時〉 令和元年七月一日～十八日

〈対象〉 長島町立平尾中学校三年一組 十三名

〈教材〉マンガ『孔子の思想』

(作画・蔡志忠、訳・和田武司、講談社、一九八九年)

※本実践は、大山幸華教諭が前半(二時間)を、論者が後半(二時間)を担当した。

※教科書は三省堂版国語教科書を使用した。

### □評価規準

「国語への関心・意欲・態度」

孔子のものの見方や考え方を捉えようとしたり、人間の生き方について自分の考えを持つとうとしていたりしている。

「読む能力」

「論語」の言葉をきっかけにして、孔子のものの見方や考え方を捉え、人間の生き方について自分の考えを持つ。

つきたい力は、「人間、社会、自然などについての自分の意見をもつ。」である。

読む(説明的文章)	「間の文化」(評論)・「フロン規制の物語」(論説)・「文殊の知恵」の時代(論説)
読む(文学的文章)	「握手」(小説)・「花や咲く咲く」(小説)「故郷」(小説)
読む(伝統的な言語文化)	「和歌の世界」(解説和歌)・「おくのほそ道」(古文)・「論語」(漢文)

ワークシートを作成する上で、菅原利晃の、「教材を」「教材で」から「教材に」「教材と」「学ぶへ」新しい時代に対応する古典の教材研究」を参考にした(注8)。菅原は、中学校の実践例として、単元「あなたも兼好法師く悩み事相談うけたまわります」を紹介している。この単元は、自分や学級の仲間がどのような悩みをもっているかを知り、その悩みへのアドバイスを、『徒然草』の作者である兼好法師のものの見方、考え方から探っていく、課題探求的な学習である。兼好法師のものの見方や考え方に親しませることを第一のねらいとしている。本実践においても課題探求的な学習を取り入れた。そこで、ワークシートには、「孔子は人が生きていく上で何が大切

だといっているか」「孔子はどのような人物か」、「孔子が今の時代に生きていたとしたら、「弟子」のあなたはどんなことを質問(相談)してみたいと思うか」等の問いを設け、人間、社会、自然などについて自分の意見を持たせ、「実生活につながる読み」について検証した。指導計画(全四時間)は次のとおりである。

時間	主な学習内容
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>漢文の響きやリズムに注意しながら、「論語」を音読する。</li> <li>「論語」に関する動画を視聴する。「論語」「孔子」について関心をもつ。ICTの活用。</li> <li>置き字や返り点(レ点)「一・二点」「上・下点」など、漢文の読み方を確認する。</li> </ol>
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>漢文特有の表現やリズムに注意して読み慣れ、孔子のものの見方や考え方をとらえる。</li> <li>教科書教材の五つの文章について、語句に気をつけながら内容をとらえる。</li> <li>教材文を読み、自分の身の回りの事柄と関連つけて自分の考えを書く。</li> </ol>
2	<p><b>論者実践</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「孔子の思想」を読んで、人間、社会、自然等について自分の考えを持つ。</li> <li>(1)マンガの中から、印象に残った話(言葉)、気に入った話を選び、その根拠を書く。</li> <li>(2)孔子は人が生きていく上で何が大切だといっているか、まとめる。</li> </ol>

- (3) 孔子はどのような人物か、自分の考えを書く。  
 (4) 孔子が今の時代に生きていたとしたら、どんなことを質問(相談)したいかを書く。

※言語活動をおして他者と意見を伝え合う。

2 授業アンケートの記入。

おおまかな学習の流れは次のとおりである。

〔第一時〕

第一時は、漢文の響きやリズムに注意しながら、教科書教材を音読させた。その際、二年生の復習として、返り点(レ点)「一・二点」「上・下点」や置き字など、漢文の読み方を確認させ、漢文特有のリズムに注意して読めるように音読練習を行った。さらに、ICTの活用として、「論語」に関する動画を視聴させた(注9)。歴史的背景などに注意して、「論語」「孔子」について関心をもたせるようにした。

〔第二時〕

第二時においては、漢文特有の表現やリズムに注意して読み慣れ、孔子のものの見方や考え方をとらえさせることをねらいとした。まず、教科書教材の五つの文章について、語句に気をつけながら内容を捉えさせ、難解な語句等については補足説明を行った。まとめとして、自分の身の回りの事柄と関連づけて自分の考えを書かせた。

〔第三・四時〕

第三時から第四時においては、これまでの学習の発展、深化として、『孔子の思想』から、学習者に理解しやすい十二の話注10を抽出して読ませ、人間の生き方について自分の考えをもたせるようにした。まず、それらの中から、印象に残った言葉、気に入った話を選び、その根拠を書かせた。さらに、孔子は人が生きていく上で何が大切だといっているか、まとめさせた。そして、マンガから読み取ったこととして、

孔子はどのような人物か、自分の考えを書かせた。終末には、孔子が今の時代に生きていたとしたら、どんなことを質問(相談)したいかを書かせた。言語活動をおして他者と意見を伝え合させた。終わりに、マンガを活用したことの感想など、授業アンケートの記入をさせた。

四 「正解のない問い」を考える力を育てる(分析・考察)

後半二時間で活用したワークシートには次の設問を提示した。

- (1) マンガの中から、印象に残った話(言葉)、気に入った話を選び、その根拠を書く。
- (2) 孔子は人が生きていく上で何が大切だといっているか、まとめる。
- (3) 孔子はどのような人物か、自分の考えを書く。
- (4) 孔子が今の時代に生きていたとしたら、どんなことを質問(相談)したいか、書く。

それぞれの設問から学習者の記述を考察する。

- (1) マンガの中から印象に残った話(言葉)、気に入った話を選び、その根拠を書く。

この設問は印象に残った話(言葉)について、根拠を明確にして自分の考えを持つことができるかどうかをみる。『孔子の思想』から抽出して提示した十二話の「論語」のマンガ教材を読んで答える設問である。

学習者Mは「君子に九思あり」を選び、次のようにまとめている。

この話は紀元前にあった話なのに、「君子に九思あり」は今でも大切な心がけだと思う。今も昔も大切なことは同じなのだと思う。君子はこの難しいことを当たり前のように考えてできる人のことを指している。これは孔子の言いたい総合的な部分を指している、大切だと思ったので、この言葉を選んだ。(M)

傍線部「これは孔子の言いたい総合的な部分を指していて、大切だと思った」に着目したい。「穏やかな表情を保つこと」「謙虚にふるまうこと」「誠実に話をする」と「行動は慎重であること」などの九つの教えは孔子の思想の根幹をなすものである。これらを読み取って、学習者Mは「総合的な部分」ととらえたのである。十二のマンガ教材を読んだ学びが生かされた表現となっている。

学習者Sは「仲弓、仁を問う。子曰く、「門を出でては大賚を見るが如くし。」」を選び、次のように記している。

自分がされて嫌だと思うことを人にすると、最終的には自分の周りには誰もいなくなってしまうので、自分で自分の品格を下げる  
ことになつてしまうので、私はそうならないように気を付けたいと  
思ったから、これを選んだ。(S)

傍線部の、「自分で自分の品格を下げる」ことになつてしまう」に着目したい。学習者Sは「品格」という言葉を用いて、自分がされて嫌だと思うことを人にしてはならない、と自らを戒める。「品格」に、学習者の読みの広がりや深まりを感じさせる。

(2) 孔子は人が生きていく上で何が大切か、まとめ。

この設問では、「テキストの精査・解釈を踏まえた自分の考えの形

成」をねらっている。複数の情報を総合的に判断し、自分の考えとしてまとめることが求められる。学習者Hは「理想的な人物となり、新しい物事を得ること。いろいろな経験をして自分の道を見つけていくこと。」と述べている。様々な経験を重ねつつ、孔子の説く、「理想的な人物」＝「君子」となることが大切であると答えている。

(3) 孔子はどのような人物か、自分の考えを書け。

この設問は(2)と同様のねらいがありながら、さらに広がりのある設問である。マンガの教材全てに目を通した上で、様々な情報を整理し、内容を捉えることができるかどうかをみる。

先の学習者Hは、「自分が弟子に言ったことすべてが備わっている、人のお手本となる人。一人一人の話をよく聞き、その話に対してしっかりと応えるすごい人。」とまとめている。学習者Hは、孔子が弟子一人一人に丁寧な助言ができ、かつ該博な知識を持ち、理想的な人物像を重ねている。一方、学習者Rは「自分の考えに自信を持ち、あらゆる人々に正しい道を歩ませようとする人物。」ととらえ、自分の信念に基づいて行動できる強い人間を想像している。Hは理想を目指す思想家としての孔子の「柔」の面を、Rは現実主義者リアリストとしての政治家孔子の「剛」の面をイメージしたと思われる。孔子の一生を鑑みると、孔子像のとらえ方としてはどちらも誤っていないといえるだろう。(1)と(3)は基本的な知識・技能の定着、またそれらの意識的な活用や説明を意識した設問である。

(4) 孔子が今の時代に生きていたとしたら、どんなことを質問(相談)したいと思うか、書く。

この設問については、先述の、単元「あなたも兼好法師」悩み事

相談うけたまわります」と同様、課題探求型学習を意識したものであり、「正解のない問い」を考える力を育てるねらいがある。

学習者Hの、「友達とうまくいっていないときには、どうしたらうまく乗り越えられるのか」、また学習者Nの、「他の人と意見が異なるとうわかつたとき、他の人の意見に流されないようにするにはどうしたらよいか」については、人間関係の調整についての悩みであり、対人関係の難しさを吐露している。学習者Rは「いらいらしないようにするためにどうしたらよいか」と記している。いずれも思春期の感情のコントロールの難しさを吐露している。

学習者Rはさらに、「孔子のようにするには、どのような考えを持ってよいか」「どうすれば、その人の人となりがわかるか」と記している。まさに「正解のない問い」を考える力を育て、読みの深まりをうかがわせる記述である。これらの記述から、「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をも」たせ、「実生活につながる読み」へとつながっていることがわかるのである。

## 五 「孔子の思想」活用のメリット(授業アンケート)

授業後に、「古典『論語』の授業にマンガを活用したことについて授業アンケートを行った。その結果が次のとおりである。

まず、古典の授業にマンガを活用したことをどう思うかを尋ねた。

<input type="checkbox"/> 活用して良かった。マンガでよくわかった。	46.15%
<input type="checkbox"/> どちらかという良かった。マンガでわかった。	46.15%
<input type="checkbox"/> どちらかというと必要ない。	0.0%
<input type="checkbox"/> 授業にマンガは必要ない。	0.0%
<input type="checkbox"/> その他(どちらでもよい)	7.7%

「活用して良かった。マンガでよくわかった。」「どちらかという良かった。マンガでわかった。」を合わせると90%を超える学習者が活用して良かったと回答、批判的な回答は皆無であった。次に、『孔子の思想』を読んだ感想を書かせた。

- 孔子は(弟子からの)たくさん話を聞き、しっかりと返答をしていくと思つた。(H)
- 読みやすかつたのでよくわかつた。自分と意見や考えが似ていた。(K)
- (孔子は心がとても広くて、こういう人になりたいと思つた。こういう人が周りにいてほしいと思つた。最近の人と全然違う。)(N)

学習者Hの、「たくさん話を聞き、しっかりと返答をしていく」に着目したい。授業において活用した、マンガ十二話を読み終えての感想である。十二話ですら、弟子に対して丁寧で確かな返答をしているのであるから、この他にも夥しいやりとりが孔子と弟子との間で行われているであろうとHは推測したのである。学習者Kの記述は「マンガを学習教材として用いる利点」②③を指し示すものといえる。

さらに、マンガの良さはどのような点にあるかを書かせた。

- 人物の表現の仕方や顔で、どのようなことが起こつたかわかる。(H)
- 絵が入っているから、どういう状況かわかる。(R)
- 本や国語が苦手な人には内容がわかりやすい。(K)

学習者Hは人物の顔や表現に着目した。「マンガを学習教材として用いる利点」③④が踏まえられた記述である。十二話のマンガに、「吾れ十有五にして学を志す」(為政第二)がある。初めのコマに孔子が十五歳にして学問に取り組む様子が描かれている(前掲書)。眉は「ハの字」である。ところが、三十歳となった次のコマでは孔子の眉は吊り上がった凛々しい眉で描かれている。そこに孔子の精神的な成長を見る事ができる。様々な絵から読み取ることが可能なことを『孔子の思想』は教えてくれている。絵からも描き手の思いを読み取ることができるのである。

終わりに、自由記述として、『孔子の思想』を活用した授業全般に関する感想を書かせた。

僕は今回、国語の授業をとおして学んだ論語にとっても感銘を受けました。しっかりと読む前は難しいことが書いてあるだけなのだろうなと思っていましたが、意味を理解すると、当たり前のように今の自分に欠けているものがわかり、「学習(勉強)」というものに対する考え方やこれからの自分の歩み方が全く新しいものになりました。

僕にとつての「学習(勉強)」というものは、やはりどこかやらされているという感じがありました。しかし、孔子の考え方をとおして、自分の知識が増えることの喜びや楽しさ、また、自分の能力を伸ばすおもしろさというものに変えることができ、いろんなものに興味がわくようになりました。そして、これはスポーツにも似ているということにも気づきました。これから、入学試験までの間、勉強を嫌いにしないよう、楽しさを忘れないように自分を成長させていこうと思えました。

受験を控えたこの時期に、こんな素晴らしいものと出会えて本当に幸せだと思えます。(I)

学習者Tは、学問を身に付けることが今の自分に欠けていることと受け止め、考えが深まっていたことが確認できる。古典『論語』の授業から学んだこととして、「自分の知識が増えること」の喜びや楽しさを挙げています。「自分の能力を伸ばすおもしろさ」や「いろいろなものに興味をわく」という記述からも、『論語』をとおして、学習者Tの前向きな姿勢が確認できる。Tは孔子の思想をとらえ、自分なりの考えをまとめています。Tの記述から、「読むこと」の意義を考えることをとおして古典に親しんでいることが読み取れるのである。「論語」の学習をとおして、人間や社会について思いを巡らし、実生活につながる読みが図られたといえよう。

本実践『孔子の思想』を活用したことにより、次の①～④が立証された。

- ① マンガの活用について、90%以上が賛成で、マンガに対する学習者の興味・関心の高さがうかがえる。※五
- ② 学習者は、弟子たちからの様々な質問に返答する博学で寛容な孔子に驚き、新たな気付きや発見がみられた。教科書の学習だけでは得られない、マンガのメリットが生かされた。※五・H
- ③ ②の驚き、気付きや発見があったからこそ、孔子のものの見方や考え方思想に共感し、「実生活につながる読み」として、自分の悩み(感情のコントロール)や人間関係調整を吐露することができたと考えられる。※四(H・N・R)
- ④ 何よりも学習者の意欲や関心が高まった。学習者「ワークシート」や「授業アンケート」が示すように、古典に親しみ、人間や社会について思いを巡らして、言語活動に取り組むことができた。※五・T

## 六 日本人のものの考え方の根本を知ること(成果と課題)

縷々述べてきたように、本論のポイントをまとめると次のとおりである。

I 古典指導の発展・深化として、「論語」のマンガを教材として活用し、「実生活につながる読み」の検証を行った。古文や故事成語等における古典のマンガ活用例は見られるが、「論語」での活用例は管見の限りほとんどない。台湾人による作画一ページ一話完結の一般人向けマンガを使用した。

II 「マンガを学習教材として用いる利点」の四つのポイントを導入して、授業の際に活用するマンガの検討、分析を行った。

III 「正解のない問い」を考える力を育てるために、マンガから「孔子のものの見方や考え方(孔子の思想)」をとらえさせ、人間の生き方について、自分の考えを形成する課題探求的な学習を実践した。

I 古典の授業において、古文や故事成語における古典のマンガの活用例はあるが、「論語」のマンガ活用例は管見の限りない。本論においては、古典の動機づけとして、導入段階でマンガを活用するのではなく、古典学習の発展・深化としてマンガを活用した。マンガの選定に関しては、伝統的な言語文化を意識して、台湾人の作画による、マンガ「孔子の思想」を活用して、「実生活につながる読み」を検証する授業実践を試みた。

II 「論語」のマンガをただ活用するのではなく、「マンガを学習教材として用いる利点」、①「親しみやすいキャラクターにより、興味関心を高め、学習への動機付けを高めることができる。」②「文字

では表現が難しい表現を、わかりやすく伝えることができる。」③「ストーリー仕立てにすることにより、文脈や背景がわかりやすく、内容理解がしやすい。」④「マンガの中に教授者と学習者が登場する場合、読者は学習者の立場に立ちやすく、教授者との対話をおして学習する過程に参加しやすい。」の四点を事前に分析、検証した上で活用の導入を図った。

III 訓詁注釈による学習指導法では、「論語」の内容に迫れたとしても、「孔子」自身のものの見方や考え方(思想)を把握、理解するのは簡単でない。しかし、孔子の問答のやり取りをマンガで数多く読むことによって、自分を取り巻く人間や社会、自然などについて自分の考えをまとめさせる課題探求的な学習は有効であることが学習者たちの記述から読み取れた。「正解のない問い」を考える力を育てる課題探求的な学習によって、自らの考えの形成がなされ、「実生活につながる読み」につながった。

これらI、II、IIIが有機的に結びつくことによつて、「古典に親しませるためのマンガ教材を活用した学習指導」の在り方を示すことができた。

本論においては、研究の成果として、以下が挙げられる。

「マンガを学習教材として用いる利点」③のように、ストーリー仕立てのマンガであれば、町田のいうように、教材本文の理解を助ける役割を担い、あらずじや孔子の言葉の意味が理解しやすくなり、古典の世界に親しみ、「読むこと」の意義をとらえることが可能になる。「マンガを学習教材として用いる利点」④のように、各記述から学習者は自らの立場を孔子の弟子になぞらえ、自分を取り巻く人間や社会などについての考えを巡らし、実生活につながる読みが図られたことが、各記述から確認できた。

「孔子の思想」を活用したことのメリットが示しているよ

うに、「マンガを学習教材として用いる利点」を意識した効果的なマンガの活用は、学習者の意欲や関心を高め、人間や社会について思いを巡らすことに有効であることが検証授業や学習者Tをはじめとする記述などからも確認できた。

一方、今後の課題は次のとおりである。

一つは、「マンガを学習教材として用いる利点」に信頼性があるか、個々の要件について様々な角度から検討し、継続的に研究を続けていく必要がある。また、今回は台湾人作画のマンガを活用したが、日本人の作画だと別の描かれ方もあり得るであろう。他の『論語』のマンガだと、読み手である学習者はどのような印象を受けるか、比較検証する必要がある。

もう一つは、本実践において、学習者は孔子の言葉に肯定的、好意的な意見ばかりで、孔子の思想に懐疑的、批判的な意見は皆無であった。孔子を聖人君子の人物と位置づけず、相対的な見方、評価があつてよい。平成二十九年版中学校国語科学習指導要領の第三学年C「読むこと」(1)「イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているもの見方や考え方について考えること。」のように、視野を広げ、考えを深めさせるためのクリティカルシンキングの指導も考えられる。「揺さぶり」の指導も必要となろう。

冒頭に引用した、加藤周一は、「孔子の思想については、いろいろの解釈が成りたつ」として、次のように結んでいる注1)。

『論語』が古典であるのは、何世紀にもわたつて中国を支配し、また日本でも大きな影響を早くから及ぼして、徳川時代に支配的となつたあらゆる思想の根本に『論語』があるからである。『論語』を読むこと、それを自分なりに理解すること、また日本は、したがつて中国思想を自分なりに理解すること、また日本

の徳川時代―しかし徳川時代のもの、考え方はいまの日本にも残っていますから、また明治以後の日本でのもの、考え方の全体を、自分なりに理解することになるでしょう。

『論語』を読むことは、当時の中国思想を理解することになり、とりもなおさず日本人のもの、考え方の根本を知ることになると加藤はいう。「君子に九思あり」や「益者三友、損者三友」のように、日本人のもの、考え方は古今を問わず「不易」の部分を残し現在に至っている。孔子の言葉に肯定的、好意的な意見が多かつたことを踏まえて、例えば、『論語』と『韓非子』の二つのマンガについて比較読みをさせるなどの指導も考えられよう。『論語』と『韓非子』、それぞれの考え方の違いが浮き彫りとなり、孔子のもの、見方や考え方に対して多様な意見が出ると考えられる。

また、多様な意見を引き出すことに関して、加藤は、昔学校で『論語』は「孝君一本」と教えられたが、『論語』を読むと、「忠」をそれほど強調しておらず、「忠」は日本側で付け加えたのだという。例えば、孔子は仕事をするには国を選べと説く。「危邦入らず、乱邦入らず」は、永遠に主君に忠誠を誓わせるわけではない。終身雇用制を採らない孔子の考え方に学習者の考えは揺り動かされる。孔子のこの考えには賛否両論あるだろう。「危邦入らず、乱邦入らず」について、肯定側・否定側に分かれ、ディスカッション形式の言語活動の設定も可能だろう。

本論においては、「読むこと」の意義を考えることを通して古典に親しませる授業の連携的研究として、中学校三年生において学習する古典『論語』を題材に、「読むこと」の意義を言及し、マンガを活用した教材開発を試みた。自らを取り巻く人間や社会について思いを巡らし、自分の意見をまとめさせ、また自分の生き方や社会の中の自分のあり方について考えを深め、意見をもたせることをねら

いととした。従来の訓詁注釈の指導から脱却し、「実生活につながる読み」の実現のために、『論語』をとおして孔子の思想を捉えさせるにはどのような手立てが有効か、検証授業を行った(注12)。

実践化を図る上で次の三点を意識して取り組んだ。再掲する。

I 古典指導の発展・深化として、「論語」のマンガを教材として活用し、「実生活につながる読み」の検証を行った。

II 「マンガを学習教材として用いる利点」の四つのポイントを導入して、授業の際に活用するマンガの検討、分析を行った。

III 「正解のない問い」を考える力を育てるために、マンガから「孔子のものの見方や考え方」「孔子の思想をとらえさせ、人間の生き方について、自分なりの考えを形成する課題探求的な学習を実践した。

『論語』を読むことは、当時の中国思想を理解することになり、とりもなおさず日本人のものの考え方の根本を知ることである。『論語』を読む行為は漢文の響きやリズムに注意しながら読むことはもちろんのこと、日中の伝統的な言語文化について考える良い学習の機会にもなる。今後は、他の古典マンガの活用についてはどのような指導法が考えられるか、研究対象をさらに広げていき、それらについても研究を進めていきたい。

### 【付記】

本論は北海道教育大学札幌校札幌国語教育研究会主催の第十四回さっぽろ国語教育研究会における口頭発表に基づく。席上でご教示くださった諸先生方に心より感謝申し上げます。

本稿の作成にあたり、公益財団法人日本教育公務員弘済会より平成31年度日教弘本部奨励金の助成を受けました。

### 〈注〉

- 1 加藤周一(一九九三)『読書術』、岩波書店、p.43
- 2 田中裕は、「読書百遍義自ら見る」は正しいかどうかを短大生対象にデカルトの方法序説を三十回読むことにより確かめた。正しいというのが結論である。
- 3 三氏の論考は次のとおりである。  
秋田哲郎(二〇一三)『論語』の一節をもとにエッセイを書く学習指導、「人文科教育研究」四〇巻  
矢野野隆男(二〇一三)『新「学習指導要領」「伝統的な言語文化」に即した入門期漢文教育法—「論語」副教材・カルタを用いて—、「四天王寺大学紀要」第五六号  
井上 泰(二〇一七)『中学校国語科における「注釈」を用いた漢文学習の試み—「論語」孟武伯孝問(為政第二)を教材として—、「中等教育研究紀要」第五七巻
- 4 勤務校の課題は、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること(平成三十一年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語)」である。「根拠を明確にして自分の考えをもつこと」は、「読むこと」における読解力の土台となるものである。読解力の育成は喫緊の課題であった。
- 5 家島明彦は、マンガの特殊性として、「絵と文字からなる複合メディア」「紙媒体の娯楽品」「大衆的、広く普及」「フィクション」を挙げ、人間の心理に影響を与えているとする。
- 6 中澤 潤(二〇〇二)『学習マンガ教材の効果に及ぼすマンガ読解力の影響』、「千葉大学教育実践研究」九
- 7 桃原千英子(二〇一八)『マンガ』を活用した小説の時制理解と指導の改善、「国語科学習デザイン」第一巻第一号

8 菅原利晃(二〇一九)「教材を「教材で」から「教材に」教材と「学ぶ」新しい時代に対応する古典の教材研究―、「月刊国語教育研究」No.五六五

9 ウェブサイト「NHK for School」の、「10min.ボックス 古文・漢文」及び「おはなしのくにクラシック」を活用した。  
www.nhk.or.jp/kokugo/10min\_kobun/

10 ①「学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや」「学而第一」、②「吾れ十有五にして学を志す(為政第二)、③「故きを温めて新しきを知れば、以て師たる可し(為政第二)、④「三人行けば必ず我が師あり。その善なる者を挾びてこれに従い、その不善なる者にしてこれを改む(述而第七)、⑤「仲弓、仁を問う。子曰く、「門を出でては大賢を見るが如くし」「顔淵第十二)、⑥「子貢問いて曰く、「一言にして以て終身これを行う可き者ありや」「衛霊公第十五)、⑦「益者三友、損者三友(季氏第十六)、⑧「君子に九思あり(季氏第十六)、⑨「君子は人の美を成し、人の悪を成さず。小人はこれに反す(顔淵第十二)、⑩「忠告してこれを善道し、不可なれば止む(顔淵第十二)、⑪「哀公問う、「弟子、孰をか学を好むと為す」「雍也第六)、⑫「賢なるかな回や(雍也第六)」。六)

11 注2に同じ。 pp. 44-45

12 孔子の思想については、既に史文珍・山本勝による、「孔子思想に基づいたシステムズ・アプローチの一考察(日本経営診断学会論集二二、二〇二二)があり、KJ法を用いて「論語」に述べられた孔子の思想を三つの概念「聞」「権」「安」に体系化している。これはシステムマネジメント論からの視点である。本論においては、国語科教育の分野から「論語」を学習者が「読むこと」とおして古典に親しませる研究として教材開発と検証授業を行っている。

### 〈参考・引用文献〉

秋田哲郎(二〇一三)『論語』の一節をもとにエッセイを書く学習指導、「人文科教育研究」四〇巻

家島明彦(二〇〇七)「心理学におけるマンガに関する研究の概観と展望」、「京都大学大学院教育学研究科紀要」第五三号

井上 泰(二〇一七)「中学校国語科における「注釈」を用いた漢文学習の試み―『論語』孟武伯孝問(為政第二)を教材として―」、「中等教育研究紀要」第五七巻

尾濱邦子・阿部敬信・宮崎栞恋(二〇一七)「学習内容の理解に及ぼす学習マンガの効果―小学校第五学年の説明文を題材として―」、「別府大学短期大学部紀要」三六巻

加藤周一(一九九三)『読書術』、岩波書店

川本信幹(一九八六)「話題源国語 心を揺る楽しい授業」、下巻、東京法令出版

東京法令出版

川本信幹(一九九二)「話題源 古文・漢文 文学作品の舞台裏」、東京法令出版

菊野雅之(二〇一九)「全国学力・学習状況調査の問いと教科書教材を結びつけ、授業改善に生かす」、「道標」二〇一九年秋号

教育出版

教育調査研究所(二〇一九)「中学校における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点の実現に向けた授業改善」について」、研究紀要第九八号

向後智子・向後千春(一九九八)「マンガによる表現が学習内容の理解と保持に及ぼす効果」、「日本教育工学雑誌」二二巻

蔡志忠作画、和田武司訳(一九八九年)『マンガ「孔子の思想」』、講談社

佐藤公代(一九九八)「古典学習の理解・記憶に及ぼす漫画の効果」、

- 「愛媛大学教育学部紀要 教育科学」 第四四卷 第二号  
 佐藤公代(一九九八)「文章の読解・記憶に及ぼす漫画の役割」、  
 「愛媛大学教育学部紀要 教育科学」 第四五卷 第一号  
 菅原利晃(二〇一九)「教材を」「教材で」から「教材に」「教材と」  
 学ぶへ―新しい時代に対応する古典の教材研究―、「月刊国  
 語教育研究」 No.五六五  
 田中 裕(二〇〇六)「読書百遍義自ら見る」は正しいか、「神戸  
 山手短期大学紀要」 四九  
 富山哲也編(二〇一七)『平成二九年版 中学校新学習指導要領の  
 展開 国語編』、明治図書  
 中澤 潤(二〇〇二)「学習マンガ教材の効果に及ぼすマンガ読解力  
 の影響」、千葉大学教育実践研究」 九  
 町田守弘(二〇〇五)「国語科におけるサブカルチャー教材の可能性  
 を探る―高等学校現場へのアンケート調査に即して―」、「早稲  
 田大学教育学部 学術研究(国語・国文学編)」 第五三号  
 町田守弘(二〇一四)「国語科におけるマンガ教材の可能性―その扱  
 い方をめぐって―」、「早稲田大学教育・総合科学学術院学術  
 研究(人文科学・社会科学編)」 第六二号  
 文部科学省(二〇一八)「中学校学習指導要領」  
 文部科学省(二〇一八)「中学校学習指導要領解説 国語編」  
 文部科学省 国立教育政策研究所(二〇一九)「平成三十一年度  
 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校  
 国語」  
 矢野野隆男(二〇一三)「新『学習指導要領』「伝統的な言語文化」に  
 即した入門期漢文教育法―『論語』副教材・カルタを用いて―」、  
 「四天王寺大学紀要」 第五六号